

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年12月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1174500478
法人名	有限会社 相模テクノ
事業所名	グループホーム あかつき
所在地	369-1225 埼玉県大里郡寄居町鉢形3178-8 (電話) 048-581-4761
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年11月21日

【情報提供票より】(平成20年11月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年3月5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	15人, 非常勤 0人, 常勤換算 14.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	8,000円+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400円	昼食	400円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日あたり 円			

(4) 利用者の概要(11月4日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	9名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.6歳	最低	64歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中医院、鳥塚歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い山林を切り拓いた空間に当グループホームがある。敷地内のブナ・クヌギなどの雑木林の散歩コースには、飛び石が程よく引かれた小道とベンチがある。切り拓かれたその先に秩父の町が一望できる。館内は手作りのロジック風の雰囲気であり、居間の中央に薪ストーブがあり暖房が取れている。夜間以外は施錠することなく自由に入出りができ、心地よい風が入る。秩父の自然に囲まれ、住み慣れた地域の人々と職員の感謝や尊敬に支えられた、安心と信頼の中で最期まで過ごせる場となっている。家庭や病院以外の場でその人の最期までを託すことができることにより、ホームに対する信頼を高めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>緊急災害時の地域住民との協力体制について課題があったが、非常災害時の通報・火災報知機の設置・避難通路の確保・消防署との連携を密にし、防災グループサポート事業所として避難場所に提供できるように届け出ている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を職員全員が理解し、自己評価に取り組んだ。大変な作業だが、日々の業務を見直す機会となり、まだ十分でないことへの気づきと目標が見えてきた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>現在地に引越してからは、区長、民生委員等自ら名乗りを上げて会議に参加している。運営推進会議は2か月に1回開催されているが、その必要が無いくらい地域包括支援センターや社会福祉協議会とも良く連携している。なお、会議では活発に意見を出し合い、職員にとっても良い刺激となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>療養明細書及び「サービス提供票」を家族に送付している。サービス提供状況には利用者の状況・要望等の記入欄もあり、今後の介護の方向性を伝えることもできる。あかつき落語会や家族同伴の1泊温泉旅行等、家族と接する機会が多く、家族の意見、要望、苦情等を吸い上げる機会となっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所で助けを求められたときは協力しており、防災避難場所にもなっている。地域の中でのホームの認知が高まっており、近所の方が季節の野菜を持ってきたり、「あかつき落語会」を聞きに来るなど身近に交流がされている。自治会・老人会にも入会し、利用者は入居前の地域の老人会への参加もしている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高齢者への感謝と尊敬の念を込め、その人らしい暮らしを送れるよう、独自かつ具体的な理念を掲げており、理念を心にとめておくことを重要視している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	人生の先輩として、高齢者に対し感謝と尊敬の念で接することを理念の中から学び、個性を大切にゆったり過ごして頂くためのケアを、必要な声かけと丁寧な言葉遣いで実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	移転後1年を経過して、すっかり地域に馴染んでいる。自治会や老人会にも入会し、入居前の老人会まで職員が送っている。2か月に1回、ホームで行っている「あかつき落語会」に近所の方を招待したり、縁先に立ち寄る感覚で近所付き合いがあり、季節の新鮮な野菜などがよく届けられる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受ける意義を職員全てが理解している。自己評価に関しては各人で行い、それをもとに職員会議で話し合った結果を管理者及び運営者でまとめている。外部評価の結果についても職員会議で評価内容の確認を行い、新たな目標にしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当地移転後は民生委員、区長が自ら出席に名乗りを上げて、2か月に1回運営推進会議を開催している。利用者の代表も参加しており、介護を受ける立場ではなく、サービスを利用するという意識からの意見が活発に出され、職員に良い刺激となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村による見学を受け入れているほか、生活保護受給者の安心な生活を得るため、社会福祉協議会と綿密な打合せを行う等市町村との連携は密である。また、「安心サポートネット」の利用者がおり毎月1回訪問してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	現金は一切持ち込まれず、預かることもない。介護保険外の請求書と週報及び1か月ごとのサービス提供票及び状況報告書を家族に送付している。状況報告書は今後の介護の方向性まで記入されている。職員は全員常勤者で離職者もなく、今のところ報告の必要がない。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会、年2回の一泊旅行時の家族会議、家族代表の出席がある運営推進会議時など、意見を交わす機会がある。家族もホームの理念を理解しており、家族からの意見、苦情、不満等は殆ど出ていない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本賃金と夜勤手当の値上げを行ったところ、定着率が良く離職者も激減した。現在は全員常勤者である。事業所全体として利用者とかかわることで馴染みながらのケアにつなげ、異動や離職があっても大きな障害にはならないよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修はかなりの頻度で実施している。気づきを大切に捉え、同業他所に実習に出すようにしている(相互訪問を1人2週間・年間6人)。関係する職種の協議会に加入し、社長は全国レベルの研修会講師も勤めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のリーダー的な役割を担っている。研修や交流会を通して講師や相互訪問等により交流の機会を持ち、サービスの質の向上を図る取り組みを日々実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	併設の居宅介護支援事業所のケアマネージャーと小規模多機能型居宅介護事業所の相談員が、家族と利用者に面接して、生活歴や希望をよく聞き、本人の状態に応じたサービスを家族と相談しながら工夫している。利用者の言動を制限することなく、本人の意志や行動を尊重したケアを実施し、徐々に慣れるようなかわり方をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	画一的なプログラムが無いゆったりした生活を見守り、時には一緒に語り合っている。自分のおじいちゃんおばあちゃんと過ごす様で、共に支えあう関係を築いている。おやつ作りなどでは、利用者に教えられることもある。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	不安定な状態がみられる入居後2週間位は、特に注意して観察するようにしている。日々のかかわりの中から声を掛けて思いや意向の把握に努め、言葉や表情から真意を押し量ってそれとなく確認するようになり、家族との実態調査からも捉えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	毎月の全体会議で、日々の記録と週報によりその人の状態や状況から介護計画を立案・修正している。その際、利用者の担当職員は家族会議の個別面談により家族の希望や要望を確認している。また、ケアマネージャーは現場の意見を尊重し、計画の立案・修正に活かしている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	毎月1回の全体会議で利用者の状況を共有している。スタッフ会議でグループ討議をし、介護の中で見えてきた状況や状態、家族の要望を踏まえてアセスメントし、経営者と管理者はケアマネージャーと医療関係者で最終的にプランの見直しを行っている。また、ケアマネージャーは職員会議と現場の会議で介護計画と現状のズレが無いが、計画期間内のレベルダウンの有無や体調の確認をし、計画の修正をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列が運営する訪問介護～デイサービス～小規模多機能～グループホームの機能を活用して地域密着型介護に当たり、認知症の初期からターミナル期までを10年スパンで実践している。ケアに当たっては周囲の意見もよく聞き、専門的に学ぶ姿勢を持っている。毎月グループホームと小規模多機能で会議を持ち、現場の会議と地域密着サービス部長会議の2部構成で、最終アセスメントまでを決定している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	明け方も時間外診療を行ってくれる医師を望むことから、入所前の主治医からホームのかかりつけ医に変わるスタイルをとっている。かかりつけ医は認知症専門医で、定期健診等看護職との連携で行っている。ホーム連携の医師以外に、本人や家族の希望する医療機関で受診することもできる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでにターミナルケアの経験がある。ターミナル期は入居時のアンケート及び契約書で本人、家族の意向を確認し、入居後も確認しながら体制を整えている。全職員がかかわり、系列の訪問看護事業所の看護師5名で24時間コール制をとって、毎日看護記録を管理者に届け情報を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は採用時にOITを徹底して学んでいる。また、雇用計画に謳っている秘密保持を退職後も守ることを書類に署名捺印している。プライバシーを損ねないよう、状況に応じて利用者の氏名をイニシャルにしたり、トイレ誘導や食事介護の時などは利用者の傍まで行って声かけをするようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、利用者が休んでいるときは、さり気なく見守りをしている。ことさら決め付けるようなレクリエーションプログラムは無く、本人の意思を尊重しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理師2名と助手1名で食事を作っている。月1回は外食するほか、庭でバーベキューをしたり、希望を献立に取り入れることもある。近所の方が届けてくれる旬の野菜と魚中心に調理し、無農薬米を使用した食事で、時には手打の麺を楽しんでいる。職員が準備し利用者と一緒に食べ、片付けには可能な範囲で利用者も手伝っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は1・2階に各1か所と訪問介護事業所に1か所あり、毎日時間に関係なく個浴で入浴支援にあっている。現在は、さらに入浴を楽しむことができるよう露天風呂を造営中である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	薪運びや薪割り、おやつ作り等を手伝ってくれる方もいる。重度の方が多くなってきたことで、食事作りにかかわることは困難だが、食事の後片付けやおしぼり作り等できることを自分の役割としていけるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花咲く時期は菖蒲やコスモスなどの花見を楽しんだり、畑作りやサツマイモ堀なども楽しんでいる。敷地内には雑木林があり、敷石や椅子が程よい場所に置かれ、散歩コースにも良い。本人の希望や体力に応じた支援がされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの出入り口及び居室の施錠は禁じており、自由に出入りができる環境にある。徘徊する方が外に出てしまう場合は、職員が携帯電話を持参し、連絡をとりながら最後まで一緒に付き添っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難通路を考えて設計し、個室でも隣同士が行き来できる造りになっており、非常災害通報・火災報知機・2階からは直接外部へ避難できる通路がある。消防署と連携を密にして年2回の防災訓練を実施し、災害マニュアルは採用時から職員に周知徹底を図っている。また、隣組合に加入し住民との協力体制が図られ、運営推進会議では区長を通して地域の防災避難拠点に申請している。米の備蓄もある。職員としては夜間の避難を心配している。	○	転居後1年にも関わらず、かなりの段階まで防災対策を実施している。今後は、職員が懸念していることでもある夜間を想定した訓練を行うことが期待される。昼夜を通じて様々な災害に対応できる具体的な避難策を検討することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者は食事を楽しみにしており、殆どの方が完食している。食事が少ない場合や水分を十分に摂取していない方には、職員がさり気なく声を掛けている。また、一人ひとりの体調に合わせて調理の工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間中央に大きな薪ストーブがあり、2階まで暖が取れている。犬と戯れたり、2階には広い廊下に平行棒が設置され、歩行訓練をする方もいる。職員手作りの表札や額、季節の花も飾ってある。庭に面した広いデッキにテーブルや椅子が置かれていて、日光浴や体操の場にも良い。静かで折々の季節感を楽しんだり、自分達の育った秩父の町を眺めながら過ごすことができる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	6畳の部屋に手洗いとロッカーが備え付けられ、ベランダに出ることもできる。利用者は使い慣れた品々や思い出の写真等を持ち込み、中には家族の位牌を持ってきたり趣味を活かした品々を飾って過ごし易くしている。		